

海軍功績調査部長殿

軍 極 秘

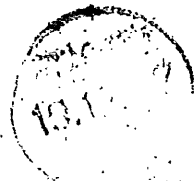
勝力残敵正機密第一号ノ一。

十一月十日提出 日高

自 昭和十九年九月一日
至 昭和十九年九月二十一日

特務艦勝力戦時日記

所屬	南西方面艦隊附屬
役務	測量艦



目次

- 一 作戰經過概要
- 二 人員ノ状況
- 三 令達報告等々
- 四 参考
- 五 船体兵器機関等

		三	二	十	九	八		
心 三 三 三	三 三 三	海			航			
依 測 量 作 業 従 事								
〇七三。飯沼地発 八〇〇。飯沼 〇八〇。飯沼地発 八〇〇。飯沼地発 〇七〇。飯沼地発 一五〇。水筒一枚直ぐ任務に就く 一六〇。同右止ム 〇六三。飯沼地発 〇九〇。水筒一枚直ぐ任務に就く 〇九五。威嚇機銃一枚止ム 一〇〇。同右止ム 一七三。水筒直ぐ止ム 一八三。同右止ム 〇九〇。飯沼地発 水筒一枚直ぐ任務に就く 一三〇。同右止ム 一四〇。同右止ム 一七五。同右発 二〇一五。マニラ湾の西方着		〇六三。飯沼地発 〇九〇。水筒一枚直ぐ任務に就く 〇九五。威嚇機銃一枚止ム 一〇〇。同右止ム 一七三。水筒直ぐ止ム 一八三。同右止ム			〇六三。飯沼地発 〇九〇。水筒一枚直ぐ任務に就く 〇九五。威嚇機銃一枚止ム 一〇〇。同右止ム 一七三。水筒直ぐ止ム 一八三。同右止ム 〇六三。飯沼地発 〇九〇。水筒一枚直ぐ任務に就く 〇九五。威嚇機銃一枚止ム 一〇〇。同右止ム 一七三。水筒直ぐ止ム 一八三。同右止ム 〇六三。飯沼地発 〇九〇。水筒一枚直ぐ任務に就く 〇九五。威嚇機銃一枚止ム 一〇〇。同右止ム 一七三。水筒直ぐ止ム 一八三。同右止ム		〇七三。飯沼地発 八〇〇。飯沼	〇八〇。飯沼地発 八〇〇。飯沼地発
マニラ地区 戒厳報告令 在泊船出港 退命令アリ		消耗爆薬留 五石						

三	四	五	六	七	八	九	〇				
マニラ湾				マニラ							
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1136 1032 1295 1653"> V 救正備作業 三〇〇 避油地帯 一五四五 マニラ港着 </td> <td data-bbox="1018 1032 1136 1653"> 救正備作業 </td> <td data-bbox="778 1032 1018 1653"> 〇八〇 菱形Aニ補付? 〇九〇 載出灰ニ付ム 〇三三〇 同右終了 〇八〇 糧付ニ離ニ元鋪地ニ就ク </td> <td data-bbox="539 1032 778 1653"> 面〇〇 糧食搭載ニ始ム 測量班揚收 九〇 同右終了 </td> </tr> </table>								V 救正備作業 三〇〇 避油地帯 一五四五 マニラ港着	救正備作業	〇八〇 菱形Aニ補付? 〇九〇 載出灰ニ付ム 〇三三〇 同右終了 〇八〇 糧付ニ離ニ元鋪地ニ就ク	面〇〇 糧食搭載ニ始ム 測量班揚收 九〇 同右終了
V 救正備作業 三〇〇 避油地帯 一五四五 マニラ港着	救正備作業	〇八〇 菱形Aニ補付? 〇九〇 載出灰ニ付ム 〇三三〇 同右終了 〇八〇 糧付ニ離ニ元鋪地ニ就ク	面〇〇 糧食搭載ニ始ム 測量班揚收 九〇 同右終了								
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="798 1653 1295 1892"> 一〇〇 新艦長 海軍大佐志和忠 着任 一四〇 前艦長 海軍大佐 赤嶋昌善退任 </td> <td data-bbox="220 1653 798 1892"> 測量班自 揚收 </td> </tr> </table>								一〇〇 新艦長 海軍大佐志和忠 着任 一四〇 前艦長 海軍大佐 赤嶋昌善退任	測量班自 揚收		
一〇〇 新艦長 海軍大佐志和忠 着任 一四〇 前艦長 海軍大佐 赤嶋昌善退任	測量班自 揚收										

1945

	三二
	海 航 〇三〇〇
<p>〇三〇〇 三三三港塔 〇四五 敵がラマン戦機四機を四〇度 高角高度八〇〇米に認め四四道 三付ク 二三三 敵がラマン戦機四機を四〇度 三付ク之上に交戦撃退 二六三 頭等上子病院敷高角外三重 傷者三名入院セム 三三三 頃右等度五〇米に留機三本 見配道行キ之上に交戦 内一 本命中ス 敵機退去ヲ命ズ 機体約一分にシテ沈没 概位 三三三 頃右等度五〇米に留機三本 見配道行キ之上に交戦 内一 本命中ス</p>	
	<p>戦果 撃破一 重傷者三 軽傷者若干 敵機若干</p>

二人負ノ状況(昭和十九年九月一日現在)
一、生七、以上

職	主務	位	氏名	記事
特別艦長		大佐	幸嶋 昌善	九月一日 横須賀
艦長	砲台長兼中隊隊長	少尉	小澤 泰夫	劉長通艦長(中隊長)兼 九月五日 横須賀
分隊長	砲台長兼中隊隊長	同右	飯岡 重司	八月五日 佐賀
				九月五日 前村空襲 計艦長(砲台)退艦 九月五日 丸太院
松岡長兼分隊長	砲台長兼中隊隊長	同右	小原 嘉作	
軍医長兼分隊長	軍医長兼第四分隊長	軍医少尉	大坪 尚文	
兼組	主計長兼中隊隊長	主中尉	石川 武男	
	中尉	中尉	池田 勝二	
同右	通信士兼分隊長	同右	井上 智次	
同右	航海士兼中隊隊長	同右	日高 昇	

同	右	松岡長村 兼 方陽士	少尉	松岡 高 二
同	右	掌 杖 雷 長	同 右	埴 尾 堅
同	右	甲 板 工 官 兼 掌 山 長	無 官 長	榎 本 文 夫
同	右	掌 山 信 長 兼 方 陽 士	同 右	内 高 一 夫
同	右	掌 山 長 兼 方 陽 士	同 右	金 岡 勝 三 郎
同	右	第 一 方 陽 士	同 右	松 村 一 正
同	右	杖 杖 長	杖 杖 長	松 山 義 雄
同	右	生 長	同 右	田 中 繁 夫

備考
 一新艦長 海軍大佐 志和 彪 九月 二十 午前 着在
 前艦長 海軍大佐 寺崎 善三 九月 二十 午前 着在
 二 分隊長 海軍中尉 西小 富 合 人 未 着在

三令正達 報告
 四参考
 五班作 兵隊 校同等

省署

(11)

備考	八七	兵科	二) 下士官 兵備人
兵(兵科)三	七一	校同科	
沈没前ニ退艦ナリ	六	三作科	
	四	学生科	
	一〇	主計科	
	三	備人	
	一八一	合計	

1949

92

海軍功績調査部長

軍極秘

昭和十九年十月十五日

勝力機密第一號

十一月十五日提出

19.12.11

特務艦勝利力機密第一號

昭和十九年九月二十一日「マニラ」沖戦闘

特務艦勝利

1956

- 目次
- 一 形勢
 - 二 計劃
 - 三 經過
 - 四 令達報告
 - 五 成果並功績
 - 六 我兵力現狀
 - 七 戰訓所見

特務艦勝利戦詳報

昭和十九年九月二十日マニラ沖空戦

一 形勢

(1) 敵情

九月十一日、菲島中南部に機動部隊を依り、連続空襲飛行基地並に艦船を相当に被害を與へたる後、同十五日、ロタ島に上陸し、一方、菲島沿岸に水艦隊を出現、頻りに補給路遮断、尚敵機、菲島中南部に攻撃を絶へず、機動部隊は北上マニラ方面空襲、算極メテ大ナリキ

(2) 我軍情況

- (1) 九月十二日、マニラ地区警戒警報発令、マニラ港に泊艦船を對し避退命令あり、同十六日、右避退解除セラルルモ、九月二十日、マニラに泊艦船は荷役速進スベシノ命アリタリ
- (2) 勝利ハ南方海軍航路部ノ命ニ依リ、スルネイ灣測量實施ノ爲、八月中旬内地ヨリ派遣ノ南航第四測量班收容ノ目的ヲ以テ

八月廿八日エスエス九日廿一日ヨミラ到着 避退命令ニ接シ
ヨミラ清西方ニ避泊十六日再度ヨミラニ入港二十日測量班
(暮林未夕内地ヨリ到着セズ)ヲ揚收糧食燃料補給完了セリ

二 計画

勝カハ九月五日早朝ヨミラ出港ルソシ島西岸ノ「マシソック」ニ避退
セントス

三 経過

(1) 経過概要

(1) 二十日。ヨミラ。ヨミラ。出港(艦内哨戒第三配備)ルソシ島西方
沿岸特航ハ。節(原速黒三)ニテ北上マシソックニ向フ 天候晴
視界良好ナリ
一。四五ノスピック湾口ニテ敵戦闘機四機右四十度高角五度ハ○○。
米三認ノ機員戦斗配置ニテ対空對潜警戒ヲ互敵ナラシメ
針路ヲ西方適宜トシ一。節(強速黒三)トス
二。三。頃(以下時刻不明)北方水平線ニ敵戰鬥機ノ大編
隊ヲ(約六十機)ヲ認メ對空戰鬥ヲ開始行運動ヲ始ム

(12) 経過概要

敵機内約十機ハ連続艦橋附近ヲ銃撃セルヲ以テ我レモ高角砲機銃
 ニテ應戦セシモ射撃指揮所ニ在リシ重傷者三名(砲術長及兵一名並ニ
 軽傷者若干海図室測距儀其他ヲ被弾約百ヲ受ク 尚敵機
 二機ハ急降下爆薬(各一個投弾)ヲチンクルモ之ヲ回避シ右一五〇度五〇米
 及左一六〇度三〇米ニ落下爆弾ニ依ル被害ナシ 敵ハ我ノ熾烈
 ナル對空砲火多ク一〇〇頃 北方ニ避退セリ
 本戦斗ニ在テ敵機一機ヲ撃破セリ

(8) 一三〇頃 針路三五〇度 艦内哨戒ヲ配備トシテ對空並對海警戒
 ヲ厳シク 南下予定ヲ変更シテフルネ山ニ回航セントス

日	天候	時刻(概)	経過概要
九月 二十日	午前 天候 晴 北西風 五乃至六米 稍のゆりアリ	〇三〇〇 〇三三五 〇六〇〇 〇 〇 一四四五 以下時刻不詳	<p>一三三〇(軍艦)</p> <p>速力八節 針路適宜</p> <p>〇三三七トール掃海水路ニ出ル 艦内哨戒第三配備トス</p> <p>文字通動ニ始ム A法ニ依リ島西岸接航 針路適宜</p> <p>敵戦計機 四機右面。度高角五度八〇〇米ニ認メ 既直ニ就ク</p> <p>速力十節(強速黒十)</p> <p>敵戦計機約六十機ヲ認ム 對空戦中</p> <p>打撃始メ</p> <p>敵一機 撃破</p> <p>敵機 艦橋附近連続銃撃 急降下爆撃手(投弾ニ個)ヲ受ク</p> <p>敵機ニ果シテ 打力止メ</p> <p>針路言下度 艦内哨戒才ニ配備</p>
〇三〇〇		一三〇〇頃	
〇三三五		一三〇〇頃	
〇六〇〇		一四〇〇頃	
〇		一四五〇頃	
〇		一五〇〇頃	
一四四五		一五〇〇頃	
以下時刻不詳		一五〇〇頃	

四 今達報告

小島

五 成果並に功績

(1) 戦果 敵グラマン戦闘機一機撃破

(2) 功績

連銃銃撃手被リマシテ極大ニ旺盛不足ナル對空火器(四單八糧) 高自砲三川七七機銃五ヲ以テ敢然應戰内一機ヲ撃破 (火耀ヲ出シテ海面ストリ) 避退セリ 交戰約二十分ニシテ 敵機ヲ撃退セリ 尚敵機ニ相當ノ機銃弾命中セルヲ認メタル 元小口及イルタノ効果不確認ナリ

六 我兵力現狀

重傷者三名 同日高砂丸海軍病院ニ入院セム

軽傷者數名

艦橋射撃指揮所ニ若干損害アリタルモ戰鬥航法ニ支障ナシ

七 戰訓所見

(1) 敵機空襲之際ニテハ敵潜水艦ト密接連絡ノ下ニ行動シ敵潜水艦 動靜ノ觀察ニ依リ今次コトヲ地區空襲隊ヲ予察シ得ナリ

(四) 敵機、攻襲の際に機銃弾(六七発)相當數發作に命中セリテ認め
 無効果不確認ニテ大口又ハ機銃アリセハ更ニ戦果大ナルヲ得ル
 少數單八種高角砲ニテ急降下爆襲 艦橋掃射、敵機ニ對ス
 ル攻襲概テ無効果少シ

敵

海軍功績調査部長殿

軍極秘

昭和十九年十一月十五日

勝力機密第一號一二

十一月十五日提出日高

19.12.11 接受

特務艦勝力戦詳報(第六号)

昭和十九年九月二十一日マニラ沖戦闘

特務艦勝力

目次

- 一 形勢
- 二 計畫
- 三 經過
- 四 令達報告
- 五 成果並功績
- 六 我兵力現狀
- 七 戰訓所見

特務艦勝力戦闘詳報

六号

昭和十九年九月二十一日夜「マニラ」沖對潜戦闘

一 形勢

(イ) 九月二十一日午前四時自山東方海面、敵機動部隊ヨリ発進セル
戦爆聯合、敵機数百「マニラ」地区及附近航行在泊艦船ヲ攻
撃シ東方ニ避退セシモ更ニ連續空襲ヲ算極メテ大ナリ

(ロ) 勝力八千一〇三「カマニラ」出港單艦避泊地「マシロック」ニ向テ途中一二三〇
項「スピ」湾口ニテ敵戦闘機約六十機ノ空襲ヲ受ケケ之ヲ撃手退セシモ
更ニ同日午後及二十一日黎明敵機再度空襲ノ算大ナルヲ以ツテ陸岸接航
スル敵機攻撃ニ對シ危険ニ付奴カ「マニラ」ニ退避シ敵機攻撃圏ヨリ
离脱セント企圖シ避泊予定地「マシロック」ニ向テ中止シ對潜警戒ヲ至嚴
ニシツルナルニシテ企圖セリ

尚二十一日午後ヨリ「マニラ」島西岸接航南下ノ予定ナリキ

二 計画

「マニラ」湾ニ回航セントス（「マニラ」ニハ既ニ南航第四測量班先
發員測量從事中ニシテ内地ヨリ測量器材未ダ「マニラ」ニ到着セガ

ルモ現有ノ測量艇其ノ他テ不足ナラモ測量作業續行可能ノ状態ニアリタリ

三 経過概要

- (イ) 二十一日。三。暹艦ヨリ出港。ヨリ地区空襲ノ算大ナル為「マシンロック」ニ避泊セント北進中同日一十三。頃スピック湾口ニテ敵艦上機約六十機ト交戦之ヲ撃退セシモ重傷者二名軽傷者数名及ビ船体兵器ニ若干ノ損害アリタリ
- 一三三。頃針路二五。度艦内哨戒第二配備トシ「ガルネイ」ニ回航セントス
- (ロ) 二六。頃病院船高砂丸ヲ認メ前記重傷者二名ヲ高砂丸ニ入院セシム一七。〇。二。度。二。〇。〇。九三度ニ変針セリ
- (ハ) 二二三。頃(當時細雨アリ視界不良海上艇アリタルモ夜光蟲輝キ居レリ)右五。度約五。米ニ雷跡三本發見直々ニ面舵轉舵配置ニ就ケンノ右約二十度回頭魚雷二本ヲ回避シ得タルモ遂ニ残り一本ハ右舷艦橋前部ニ命中爆発艦ハ前部ニ傾斜送信機起動出來ガル為発信不能浸水甚ダシク艦長弁聲ニテ總員「天皇陛下萬歳」ヲ三唱續イテ總員退去ヲ命スト同時ニ艦ノ傾斜急速ニ増大シ魚雷命中後約一分シテ艦尾ヲ揚ゲ直土シツ全ク

四 今達報告 省略
五 成果並ニ功績

(イ) 戦果ナシ
(ロ) 功績

敵潜水艇攻撃ヲ受テ被雷沈没早急ナリシ爲攻撃不能ナリシモ
乗員ハ軍紀嚴正沈没着克ク各自ノ職務ヲ完遂セリ

六 我が兵力ノ現状

(イ) 艦体沈没(搬出セルモノ無シ)セリ
(ロ) 人員ノ状況左ノ如シ

區分	遭難直前總員	生存者
進士官以上	一六	一
下士官兵	一七六	二六(内四名重傷)

海中ニ没セリ (概位一三一三〇ノ一三九一三〇五)

之ヨリ先御寫真 御勅諭奉還ニ向ヒタルニ急速傾斜ニ依リ

奉還ノ術ナキノ已ムナキニ至レリ

(ニ) 艦体沈没後約五分間ニシテ敵潜水艇ハ浮上電探ヲ操作シ僚艦ナキ

ヲ確認シ後附近海面ヲ照射シ海面ニ在リシ生存者ニ機銃射撃ヲ

行ヒツテ電池ヲ充電スル如キ音響ヲ發シ約三分後再び潜航セリ

備	人	三	一
計	二九五	二八(内四名重傷)	

生存者ハ浮揚セシ第一カッター及測量艇一ニ分乗二十五日ルパン島到着
 二十日夕方にニ集合セリ
 生存者中下士官 備人十一名 呉海兵團(九月二十日附)ニ轉勤セシノ
 重傷者四名ハ第一〇三病院ニ入院セシノ残余十二名ハ第五補充部
 ニ轉勤セシム

七 戰訓所見

- ① 空襲前後附近海面敵潜ノ出現大ニシテ航行艦船ハ一層對潜警戒
 戒ヲ嚴ニス(キナリ)
- ② 單艦行動ハ絕對不可ナリ(特ニ夜間)敵潜ハ沈没後僚艦ナキヲ確
 認シ後浮上照射掃射ヲシ徹底的打撃ヲ與ヘンド意圖セリ
 切齒扼腕セルモ之ニ應戰ノ術ナキハ誠ニ残念ナリキ
- ③ 敵潜水艦ノ跳梁ニ對シ積極的且徹底的攻撃手段ヲ講ズルト
 共ニ對潜兵器並ニ對潜攻撃法ノ進歩卒達ヲ切望シテ止マズ

(終)

寫

軍機秘

臨時勝利機密第一號

昭和十九年九月二十九日

勝利特務艦長職務執行

海軍中尉 日高 昇

十月十日送付 日高

功績調査部 主任

昭和十九年九月二十一日 特務艦測量艦勝利沈没顛末報告

首題、件左記、通三有之候

記

一 遭難日時

昭和十九年九月二十日二三三〇

二 遭難位置

一三一三〇北 一九一三〇東

三 經過概要

一九九月二十日、出港時、状況

勝力、南方海軍航空隊司令部、依リブルネイ湾測量
 實施ノ爲メ八ノ中ノ内地ヲ派遣、測量班南航部員
 田宮中佐以下三十四名、及測量器材收容、目的ヲ以テ、
 二十八日、スラバヤ、祭九月十二日、マニラニ到着セリ、然ルニ當時
 ニシテ、某区ハ警戒警報発令中ニシテ、艦船避退セリ、
 *命ニ依リ入港後直ニ出港シテ、湾西方ニ避泊セリ
 十六日、マニラ入港新艦長志和彪大佐、八日艦長芹嶋
 昌善大佐ト交代直ニ炭水補給並糧食需品搭載ヲ
 完了セルニ、内地ヨリ測量器材未ダ到着セズ、待機中ナリ、此戰況
 急迫ニ告ケ、マニラ地区空襲必須ト察知セルヲ以テ、廿日警備
 隊ニ假入隊中、残留測量班ヲ急據搭載、上再度避泊、島
 マニラ湾ヨリニ向ケ、二十一日、三〇〇出港セリ
 一方九月二日、マニラニ到着セル測量班員中、十六名ハ急速ヲ要スル

ブルネ河測量、爲八日八重山ニ便東先發、残艇真中、隊長田代
 中佐ハ、ガレキ熱、爲第六〇海軍病院ニ入院、自六月三ニオハ、田
 枝手ハ器材処理、爲何トモ残留セシムレ、マニラニ在リ、七月一五日
 以後消息不明トナリ、タル等三ニモ、若シ生存者九名及測量艇ニ隻
 及内地ニ輸送、測量艇ニ隻何トモ、勝ちニ収容セシレ、アリ、
 三、マニラ出港、被高止ノ状況

八月三日、三ノ洋艦ニ、出港、艦内哨戒、オシ、配係、リ、ノ島、オシ、其岸
 接航、入、前、五、一、田、中、掃、除、ノ、爲、ボ、川、大、シ、リ、ニ、マ、ニ、ソ、ウ、ノ、向、リ、然
 右、言、四、五、北、緯、一、一、四、〇、分、東、經、一、一、二、度、の、五、分、ニ、離、對、斗、機、可、機、
 右、回、〇、度、高、自、五、度、八、分、米、ニ、認、ノ、配、置、ニ、付、キ、針、路、ヲ、西、ノ、回、直、ト
 十二、生、ニ、至、リ、セ、ム、一、一、三、〇、ノ、真、才、位、點、度、高、カ、山、ニ、度、四、分、米、ニ、認、斗、機、大
 編、隊、約、六、十、艘、ヲ、認、メ、直、リ、之、ニ、應、戰、大、向、度、之、事、運、動、ヲ、開、始、セ、
 敵、後、ノ、内、敵、機、ハ、艦、橋、ヲ、進、リ、鏡、射、ヲ、並、ニ、急、降、下、爆、索、投、擲、シ、但

行進二五の北方に機銃一機連破七二七
 砲術長大尉重田重司水長田中栄治重傷其他軽傷者
 数名の出機銃彈痕約百兵器若干損害あり
 航海の支障ナカリキ

口希島南部地区に空襲被害あり推察ハルニ合波、
 統空襲ハ算極ナリ大ニテ附近沿岸に遠
 断海眼潜撃戒ヲ示シテ南下シテハ
 踏ニ度トナシ一連連更ナシ(右三ノ度間隔止右ノ字
 運動ヲ始メ一ノ頃砲位航高砂丸ヲ認
 我ハ一傷甚ヘ者ヲ連艦高砂丸ニ入
 針路ニ一ノ度ニ其針路一九三度反
 ハニニ右五ノ度五ノ米ニ雨跡ニ
 道ニ付テハ魚雷ニ本ニ回避ニ付タル
 一ノ本ハ右舷艦橋前部

ニ命申セリ此由時細雨アリテ視可不良海上ヲ行キタルニ夜光虫
輝キ置リ

三被雷ヨリ沈没止及其ノ在狀況

不被雷ト同時ニ防迷ヲ令セシモ前部ヨリノ浸水甚クシテ約三十分

ニ船橋造浸セテ船米及貨物ニテ

天皇陛下萬歲ヲ唱和統イテ船員退去シテ令リテ前部ニ蓋を設

入ニ概テ艦重直ニテ急ニ激シ水系下ニ浸セリ其ノ間約五分間乗

員一員ニ經緯儀兵ニテ志ヲ各自ニ職務ヲ全クセリ猶被雷ト命

ニ命申テ命セシモ通信局故障ハクメ不可能ナリ

口沈没後約五分間ニテテ敵潛ハ海上附近海面ヲ照射ニ機銃

射撃ヲ行ヒ艦也ニ命申テテ知音ヲ及ビセテテ海上約三

十分ニシテ再ニ潜航セリ

四遭難後生存者ノ行動

一 昔孰當時ニカクド 救助艦ニ仰ヘテ、一カカシハ水橋ノ大ナク、
 上甲板ヨリ其ノ他上甲板ニ四ノ火艇一測量艇四ノ筏ニテ、カクモ水橋
 連テカクシタメ、艦上兵ニ没入シ一カカシト及測量艇一筏一並ニ與
 覆セシ測量艇一水面上ニ發シテ、津波後一カカシ上測量艇ニ夫々
 一七名三三名收容猶附近海面ニ約半名下ニ没スルヲ以テ、之ヲ收容シ
 別メテカクモ敵艦上ニ照射鏡ヲ撃テ、カクシ中絶ハ止メカクシニテ、
 乗艇員面ニ海中ニ入りタリ、潜没後津波海面ヲ搜索シ、鐵銃ニテ
 一各收容シタルノミ、刺テ、カクシニテ、其ノ葉ニ風雨降リ、裸身極メテ寒
 ク、捜索下ニ断念、止メカクシニテ、
 一 第一カカシ一、糧食亦類飲料ト皆無シ、敵長艇海上日高中、津波
 下下中官セ、其四標船手ニテ、計十四名收容後、負傷者、應急
 一 處直ニ施シ、以テ、我々他ノ艘、眠タメ、深流ス、二十日、蒸氣明ト
 一 合時ニ、津波海面ヲ捜索シ、カクシニテ、一カカシ。頃南西風吹

八洲島上... 船中... 沈没... 絞帆... 島西... 到... 八洲... 船長... 名... 史... 始... 朝...

難、皆報告也、猶測量機一、カチ、カチ、左然ルカ、島到着
之、連絡上、一曹佐佐木、次、次、手、野、行、決、夫、カ、音、早
期、(時、自、本、週) 千、四、百、早、(期、前、前) 服、内、之、死、七、セ、リ

二、銃、員、三、名、(西、洲、軍、機、二、名) ル、カ、カ、為、陸、軍、特、報、隊、某、名、機、死、者
三、名、隊、員、二、名、(通、信、員、二、名) 機、客、也、機、一、名、在、内、は、傷、者、九、名、ル、カ、カ、島
軍、行、隊、二、機、二、名、通、信、機、一、機、送、機、二、機、乘、二、機、二、名、比、島、航、空、隊
二、機、員、有、重、傷、者、四、名、一、名、三、名、傷、位、二、送、信、員、係、者、部、二、連、絡、ヲ、ト
ル、カ、カ、系、手、右、の、機、量、機、二、燃料、機、二、上、等、六、日、の、五、日、出、港、全
日、一、九、日、以、之、三、日、之、到、着、何、カ、一、機、持、離、機、機、隊、也、出、港、機、全
命、七、名、進、日、機、二、也、三、日、到、着、二、機、送、

人員の状況

一、九月三日、現在迄、状況

六 参考

二 人員明細別紙

		准士官以上	下士官兵	備人	計
遺難直前線員	一六	一七六	三	一九五	
測音機	一	二七	一	二九	
上陸前戦死	〇	一	〇	一	
九月二十四日現在生存者	一	二六	一	二八	

一 御傷具並御勅諭 搬出二向ヒ以テ 浸水運送ニ付テ 遂ニ搬出シ

得ニ誠ニ申譯ナキ次第ナリ

二 機密書類全部艦下共沈没ニ失ハレタキニ至リタルモ

敵手ニ入ル惧ナト認ム

三 測量班(南方海軍航路部員)測量班(人員)状況

班長以下 四十三名	一六	二五	一〇	二	班長以下 三十三名
内回五六共 生存者九名					

- (四) 生存者... 橋... 官私物ヲ七失セリ
- (五) 生存者... 命... 論... 與... 米... 清...
- (六) 生存者少キ原因ト考ル事項左ニ如シ

不...
 一 夜間... 視界... 海上... 模様...
 二 敵... 浮... 向... 機銃... 手...

紙

人員明細書

一九四二年四月一日。現在一生存者

准士官以上

職	職	氏名	部	事
海軍中尉	航海士	日高昇	第一	

下士官兵

官職	姓名	入籍番号	部	事
上曹	高田信彦	一七六五五		
上機曹	井上利田	一七五四四		
	岡村勲	一七四七四		
一曹	河部武六	一七五七五	輕傷	
	高松政人	一七六六一		
	今井美穂	一七五六一		

一	機書	普機	栗田安弘	三十一	九
二	西日	普信	大野博	三十九	九
		普應	龜尾茂	四十八	九
		普昭	太田四郎	五十九	四
			塩江義則	六十六	
			大原四郎	七十八	
			三宗儀藏	九十七	
			鈴木末芳	九十九	
			高木服音	八十八	
			裏土美登三	八十八	
	上水		中山香末	三十八	
			伊賀光治	三十八	
	一水	普信	福永俊藏	三十八	
		普昭		三十八	

◎人員明細書（行方不明者）進士官以上

（註）生存在者、記憶、記載、（昭和二十二年十月一日現在）

水	菅原 洸	秋山 久幸	佐々木 八郎
水	小原 照雄	佐々木 八郎	佐々木 八郎
機	鈴木 利三	佐々木 八郎	佐々木 八郎
機	塚本 義雄	佐々木 八郎	佐々木 八郎
機	加藤 四造	佐々木 八郎	佐々木 八郎
機	桑原 照明	佐々木 八郎	佐々木 八郎
機	藤原 要	佐々木 八郎	佐々木 八郎
主	渡津 幸	山崎 興四郎	越前 偏人
			一名
			總員下士官共三十七名

官職	獸斗部 通	氏名	若
大佐	飛長	志知	彪
大尉	長	小	中
		泰	光

926T

大尉	大垣尚史	
中尉	小丸喜作	
少尉	石川武夫	
中尉	池口藤二	
少尉	井上哲夫	
少尉	松岡高生	
兵曹上長	妹尾堅	
兵曹上長	榎本文夫	三日午前并立昇進ニテ整備
兵曹上長	内富一夫	
兵曹上長	杉山英雄	
兵曹上長	田中繁	合計 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省
兵曹上長	金岡謙治	特選 陸軍省
兵曹上長	松村一正	

人員明細書		(行方不明者)		下士官兵	
等級	氏名	部	番号	等級	氏名
一等	山崎 銀義	陸軍	番号不明	一等	芝崎 嘉之
"	大谷 興一	"	"	二等	須田 金八
"	松下 守之吉	"	"	"	森田 正雄
一等	植村 文吉	"	"	"	馬場 元一
"	鈴木 捕男	"	"	"	小澤 健吉
"	植村 徳藏	"	"	水長	今井 俊夫
"	佐伯 辭雄	陸軍 (九月参道)	"	"	西本 勉
"	松原 一巳	"	"	"	高橋 一
"	番家 八郎	"	"	"	米野 四郎
"	坂本 政次	"	"	"	天野 栄長
"	木山 池	"	"	"	今中 政男
一等	原 盛千代	"	"	"	山根 若雄

826T

水													高深雄夫
森松雄	高橋豆	松原孝	春米勲	堂山俊治	奥作武夫	平岩輝刻	八木雅一	坂本和男	山田清二	細川巨三	横山金治	鈴木武	
				水									上水
	椎葉利男	坂道一守	片山光男	橋本七郎	樋路茂	園根茂	野吹勝見	今飯田勝由	中南正	伊佐治浩吉	杉本元一	松原春美	鈴木正行

646T

水	久川	一樹	上	振	吉	平	不	忠	吉
吉	井	重	雄	吉	井	重	雄	吉	井
半	李	孝	治	西	藤	勇	吉	池	田
岡	藤	寛	正	木	正	義	横	宮	一
武	田	道	一	寺	地	五	見	長	田
東	輝	重	寺	地	五	見	長	田	清
森	谷	保	晴	長	田	清	豊	島	針
吉	田	喜	憲	豊	島	針	池	田	清
富	岡	甲	子	池	田	清	池	田	清
高	山	等	池	田	清	池	田	清	池
福	島	勝	池	田	清	池	田	清	池
松	谷	直	池	田	清	池	田	清	池
赤	井	芳	三	武	藤	勇	吉	池	田

一 段 七	村 上 光 司	早 川 賢 一	森 本 武 夫	廣 瀬 金 作	山 本 正 吉	若 林 義 春	拓 植 崇 美	足 立 進	磯 部 三 郎	福 原 利 三 郎	藤 本 繁 一	牧 志 朝 春	加 藤 佐 七
一 段 七	大 川 一 八	加 賀 特 三 郎	野 崎 健 一	白 木 正 一	大 元 茂	定 本 清	山 村 俊 雄	西 州 信 雄	山 田 聖 九	近 藤 鐘 太 郎	機 張 坂 越 晴 正	原 新	福 井 繁 三

1981

上機	佐藤修	伊川義次	樋口清美	吉井巖	中島正春	藤田強	秋山正夫	勝部吉夫	川上次男	原田藤衛	川上忠夫	濱田菊雄	機長 正司要二
上機	永井芳造	三輪松太郎	佐古実雄	井上政信	森本忠雄	中村京一	藤本保	竹中哲夫	中野敏夫	角證雄	園原一幸	山田澄男	上機 室和公助

三上七	平野敬治	主長	山形	
二長	廣瀬幸夫	一主	上岡博	
原	原繁		宮崎弘	
一工	辻井利夫		名和眞澄	
上七	森本幸夫	水長	中野芳彦	
名長	大江善雄	水	西大八	
〃	西山扶作		笹方信一	(一軒松野原)
一介	内藤弘之		松下	(佐倉)
上主七	水田繁	備人	平原	(割草)
一主七	花田忠次		田中忠光	(理髮人手)
二主七	岡田常光			下三ツツ六ノ名 五ノ八九名 備人ニ名
〃	山田行夫			
〃	安田正美			計一五二名

備考

小海軍大臣 重岡重吉 (八月五日佐賀縣川登卒)

九月三日午前、列強艦隊に於て、重傷、即日退艦、洋上ニ在リ、病

院、舩高妙々ニ入院シタ

(2) 水長 田中崇治 (第三補充部、一時終戦中)

九月三日午前、列強艦隊に於て、重傷、即日退艦、洋上ニ在

リ、病院、舩高妙々ニ入院シタ、終戦後、海軍大臣ニ送附シタ

(3) 水 沼本兼二

九月三日午前、列強艦隊に於て、重傷、即日退艦、洋上ニ在

リ、重岡大尉、後任中尉、西郷(兼二)末少着任セズ

終

1984

寫送附光